

「富山県成長戦略(案)」に対するパブリックコメントの意見の概要及び県の考え方について

資料3

※本文の修正があるもののみを抜粋。

番号	項目	該当頁	意見の概要	県の考え方
13	まちづくり戦略	7	ビジョンを拝見し、全体として整理されていると感じた。ただ、トップの、メッセージが個別の戦略に落ちていないためインパクトが弱く感じる。 トップメッセージの、「関係人口1000万人」とも重要で、数値がありわかりやすい。また、これは、地域成長の重要な視点。都市の経済力は、ヒンターランド(背後地)で決まる。富山県の地理的ヒンターランドは、北陸3県、飛騨あたりか。ここも、金沢や名古屋と重複し、限界がある。しかし、「関係人口1000万人」とするとヒンターランドが拡大する。バーチャル視点で取り込むコンセプトは素晴らしい。 折角の素晴らしいコンセプトが、戦略段階にブレークダウンされていないように見える(キーワードは組み込まれていない)。例えば、まちづくり戦略の関係人口増大策はなにか。(目標はどう考えればよいのか。)。トップ方針が細部に宿っていることで、ベクトルが揃う。 富山県の発展には、外部関係者とネットワークを作ることが重要であり、微力ながら私も活動していきたい。	「関係人口1000万人」を目指す点を評価いただき、ありがとうございます。 ご意見を踏まえ、まちづくり戦略のP7「新しい価値を生む人材は、個性的で自由な文化を風土を好むことから、他地域のまねではなく、～」の記述に「関係人口1000万人」を盛り込み、「新しい価値を生む人材は、個性的で自由な文化を風土を好むことから、『関係人口1000万人』を見据えて、他地域のまねではなく～」に修正します。
14	まちづくり戦略	7	まちづくり戦略について、田園地域では、P7「オフグリッド・マイクログリッド」の後にスマートグリッドを追加してほしい。(スマートグリッドはDXにより複雑な送配電網の構築運用の最適化を実現したもの)	ご意見を踏まえ、まちづくり戦略のP7「～中山間地域などでのオフグリッド・マイクログリッドの実証実験～」の記述を「～中山間地域などでのオフグリッド・マイクログリッドなどの実証実験～」と修正します。
16	新産業戦略	8	精神性の面で日本との繋がりが深い(仏教、生薬-Ayurveda、漢方の根幹)、中国を凌駕する程の将来性が高い、インドとの関係性を再考する。富山インド協会も有り、Andhra Pradesh州との提携が有るが、実りが殆ど無い。折角、関係性が有るのに、インドを富山にもっと引き込む、活用する。今後、地政学的にも重要となるインドを富山県としてもっと取り入れるべきです。映画ロケ地での活用をもっと積極的にすれば、如何か。(映画芸術でもインドとの繋がりが等、山岳でも勿論)。多様性を標榜するなら、多様性で統一性融合するインド(Unity in Diversity)を上手く活用して貰いたい。インドも海有り(インド洋・ベンガル湾)山有り(インドヒマラヤ)。 産業的にもIT大国インドを富山も取り入れるのも良いのではと思量。 高岡でのコンピュータサイエンスのユニークな起業の場を設けるのも、成長戦略標榜のスタートアップ支援の一環となるかも知れない。	富山と縁がある方も連携し、富山の魅力を発信していくよう努めてまいります。 ご意見を踏まえ、新産業戦略の記述のうち、P9「対岸諸国」を「対岸諸国をはじめとした各国」に修正します。 インド・アンドラプラデシュ州とは、2015年12月に「交流・協力に関する覚書」を締結し、以降、インド人国際交流員の配置、留学生の受入れ、大学生・教職員の県内視察受入れなどの人的交流を積み重ねています。 また、インドでは映画の人気の高く、映画を通じて多くの方に本県の観光地を知っていただくことは大変重要であると考えています。このため、これまでもインド映画を誘致してきたところであり、今後ともロケ誘致に積極的に取り組んでまいります。 ご意見のとおり、インドはIT産業が盛んな国であり、ご提案については、今後の県の産業施策や、県内で実施する創業支援プログラムを検討する際の参考としてまいります。
17	ブランディング戦略 ・新産業戦略	8、9	県民が「真の幸せ」(ウェルビーイング)を目指すとのことで、斬新な提案も多く感じましたが、重要な視点が抜けていると思った。それは、交流される方を含めて富山県民の多くが何を一番幸せに感じるかという、県内の森林が涵養する美味しい水と空気そして木材、農業が生産する美味しく安全な米、野菜、畜産物、富山湾から採れる新鮮な魚介類などを、日々、歴史に育まれた郷土料理などで味わい、体感することが、富山県に生まれ訪れての幸せを感じる土台ではないか。 しかし、今、本県の農林水産業は、従事者の高齢化による担い手不足、コロナ禍での需要減退による農産物価格の下落、農山村の過疎化の進展による集落機能の低下、耕作放棄地の増大など様々な深刻な課題を抱えている。 成長戦略(案)には、農林水産業の1文字も出てこなく、地に足が踏んでいない戦略と感じた。富山県民の子々孫々につながる幸せの土台である農林水産業についても持続的に発展するよう、例えば、次代を担う人材の育成強化、環境に負荷を与えない農林水産業、スマート技術を活用した農林水産業、輸出や農林水産物のブランド化、富山の食文化の普及等による農林水産物の需要拡大、農泊や移住者等による中山間地等農山村の活性化などの施策を、是非、この成長戦略に盛り込んでいただきたい。	新産業戦略には、農林水産業を含んでいますので、ご意見を踏まえ、新産業戦略の記述を次のとおり修正します。 P9「生産性向上にはDXの推進が必要不可欠であることから、県内企業の生産性向上」の「県内企業」を「県内産業」に修正します。 P9「県内企業の商品・サービスの高付加価値化」の「県内企業」を「県内企業等」に修正します。 また、ブランディング戦略のP8「リモートワークやワーケーション、多拠点居住も含めた」を「リモートワークやワーケーション、多拠点居住、農泊なども含めた」に修正します。 なお、成長戦略を実行していくアクションプランにおいても、スマート農林水産業の普及、輸出の拡大、農泊の推進などを位置づけ取り組んでまいります。さらに、その他のご提案いただいた取り組みについても、今年度策定予定の「富山県農業・農村振興計画」に基づいて取組みを進めてまいります。
31	ウェルビーイング戦略	12	「若い女性のニーズや意識を把握するとともに、女性のウェルビーイングが向上するように意識改革を推進します」という表現があまりに淡泊である。「把握」したものをどう反映するのか、また「意識改革」はどのような意識を誰に対して推進するのか、もう少し補完した方が施策が伝わる。	ご意見を踏まえ、真の幸せ(ウェルビーイング)戦略のP12「～若い女性のニーズや意識を把握するとともに～」の記述を「～若い女性のニーズや意識を把握・分析するとともに～」に修正します。 また、同じくP12「～女性のウェルビーイングが向上するように意識改革を推進します。」の記述を「～女性のウェルビーイングが向上するように県民や県内企業の意識改革を推進します。」に修正します。
54	ブランディング戦略	14	ブランディング戦略のP14「暮らすように旅をする新たなスタイルの観光サービスを創出するため、女性の専門性や柔軟性、生活者としての視点を活かし、知的好奇心が旺盛で本物志向、消費意欲が旺盛な『ハイエンド観光客』への対応ができる人材を育成」とあるが、意味がよくわからない。 暮らすように旅をするスタイルの観光サービスが、「消費意欲」のあるハイエンド観光客につながるのか。暮らしを見せる≠消費意欲。ハイエンド観光客は暮らしを見たいのか。 ハイエンド観光客への対応ができる人材育成とあるが、そもそもハイエンド観光客が観たい場所や機会が県内にある必要があると思う。	ハイエンド観光客は知的好奇心が旺盛で本物志向であることから、暮らすように旅をする新たなスタイルの観光の対象としていますが、新たな観光スタイルの対象は、ハイエンド観光客に限定するものではないので、ご意見を踏まえ、ブランディング戦略のP14「～消費意欲が旺盛な『ハイエンド観光客』への対応～」の記述を「～消費意欲が旺盛な『観光客』や富裕層への対応～」に修正します。 また、ご提案のあったハイエンド観光客が観たい観光地域づくりについては、これまでも大切な取り組みと考えており、ハイエンド観光客に訴求する富山ならではの「暮らすような旅」について具体的に検討し、現在策定中の観光振興プランにおいても、富山らしい魅力の創出に努めていくこととしております。
55	ブランディング戦略	14	ブランディング戦略のP14「富山の自然、食・伝統文化」のあたりに「伝統産業」を追加してほしい。(例えば八尾地域には規模は小さいが和紙や天蚕(屋外での放し飼いで黄緑色の繭を産する)がある)	ご意見を踏まえ、ブランディング戦略のP14「富山の食・伝統文化などを活かし～」の記述を「富山の食、伝統的な文化や産業などを活かし～」と修正します。
77	新産業戦略	16	新産業戦略のP16「(6)実証実験の誘致・実施」の「中山間地域の活性化」に生態系の保全および林業など木材関連産業の再生振興について以下のような内容を簡潔に加えてほしい。 ・生態系の保全について森林の有する多面的機能のうちでもCO2の固定機能の重要性から改めて認識されているが森林に対する一般の認識は低い。 ・木材については輸入材におかれ県産材のシェアは低下し価格も低迷し、林業関係事業者も減少し森林組合が大半を担っており、山林所有者は山林での収入はなく山林を放棄し隣地との境界も定かでない。 ・一方、木材利用促進法の改正により利用促進の対象が一般建築物にも拡大され木造のビルやマンションなどの大型建築物も出現している。 以上のような状況を受け、以下のような対応が求められる。 ・地理データ・空間データなどビッグデータとAIを活用した森林や鳥獣など生態系全体の適切な保全管理、山林の所有者と境界を明確化 ・上述の森林管理データを活用できる遠隔制御可能なロボット型の先進的スマート林業機械による施業を進め、有能な林業従事者の確保を容易にする。林道・作業路の開設を最小限にとどめ、環境への負荷を縮小するなど、施業のコストダウンにより、山林所有者にも利益の配分が可能な林業経営の本来あるべき姿に再生を目指す。 ・国産材利用の流れに乗りスマート化された大型の製材工場・集成材製造施設・プレカット工場などを集積整備し、川上の林業から川下の需要サイドまで一体化された流通ルートを確立し、木材産業全体の振興を図る。 ・さらに大手企業の山林経営を参考に地域の山林の一体経営も検討する必要がある。 ・鳥獣の適切な管理による鳥獣被害の防止と鳥獣の頭数管理による駆除とジエビの振興を図る。 以上について大規模な実証実験を検討してみてはどうか。	林業、木材関連産業の振興は、新産業戦略に含んでいますので、ご意見を踏まえ、新産業戦略のP8「生産性向上にはDXの推進が必要不可欠であることから、県内企業の生産性向上」の記述の「県内企業」を「県内産業」に修正します。 いただいたご意見については、県政運営の中長期的指針、予算編成・事業立案の基本方針として定めた県の総合計画や「鳥獣保護管理事業計画」や「富山県森林・林業振興計画」や森づくりに関する個別計画である「富山県森づくりプラン」及び県産材の利用促進に関する個別計画である「県産材の利用促進に関する基本計画」等に基づいて施策を進めており、ご提案については、今後の施策検討の際の参考としてまいります。

番号	項目	該当頁	意見の概要	県の考え方
84	新産業戦略	17	<p>関係人口1000万人を目指すという考え方や、個々のまちづくりやブランディング戦略などの方向性について、心から賛同するものが多く、具体的な施策として実を結ぶことを願っている。従来の県庁には感じられなかったような挑戦的な姿勢が各所に感じられる。</p> <p>ただ、全体的にカタカナが多いのは歓迎できない。アントレプレナーシップは注釈で「起業家精神」と書かれ、インキュベーションは注釈で「創業支援」と書かれていますが、一言で置き換えられるなら、最初から日本語で書くべきではないか。</p> <p>この成長戦略が年配の方にも未成年の方にもわかりやすく読んでもらい、理解してもらうためにも、一つ一つの言葉がどうしたらより分かりやすくなるか、伝わりやすくなるか、吟味すべき。</p> <p>また、行政機関が作成する文書である以上、青少年の日本語教育への影響にも配慮すべき。仮に外部委員の方がご発言になったカタカナの言葉であっても、そのまま用いるか、置き換えるかの判断基準を厳格にすべき。この成長戦略が、一部の人のだけに響くものではなく、多くの人々の心に響くものとなり、また、未来を担う青少年に良い影響を与えるものになることを願う。</p>	<p>成長戦略の姿勢を評価いただき、ありがとうございます。</p> <p>ご意見を踏まえ、カタカナ表記に関しては、より分かりやすく読んでいただけるよう、可能なものについては日本語を併記します。</p>
85	新産業戦略	17	<p>あれだけ、県民や県議会にカタカナ連発と指摘されているのにまだ多い。わかりやすい日本語があるのにどうして使用しないのか不思議だ。あまり、連発すると薄く、軽薄な印象を与える。</p>	<p>ご意見を踏まえ、カタカナ表記に関しては、より分かりやすく読んでいただけるよう、可能なものについては日本語を併記します。</p>
86	新産業戦略	17	<p>カタカナ語と英語略が多すぎるように感じる。富山県の成長ための施策は、若い人、情報機器の活用や外国語が得意で書かれていることがすぐ理解できる人等だけによって行われるものではなく、情報機器が苦手な人や全く無縁な人、外国語が不得手な人、いろいろな人の理解と協力によって行われるものである。110万人県民と一緒に行動する必要がある。成長施策の指針となる「成長戦略」も広く県民に理解される必要がある。言葉や文字はコミュニケーション(ここでは県の施策を県民に伝えるための)の手段なので、意味が伝わらなければ本末転倒である。</p> <p>文化の最たるものは「ことば」である。これまでも時代とともにことばは変化してきたが、カタカナ語の多用、造語ではなくきれいな日本語を後世に残すことが日本文化を守る・継承するということにもなり、これも行政としての大事な使命だと考える。カタカナ語を半分に減らすくらいの意気込みで、修正されたい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、カタカナ表記に関しては、より分かりやすく読んでいただけるよう、可能なものについては日本語を併記します。</p> <p>なお、ご提案のとおり、成長戦略については、広く県民の皆さんにご理解いただくことが大切であることから、この成長戦略をわかりやすく紹介するパンフレットを作成するほか、成長戦略を県内外に発信するトークイベントを令和4年3月に開催することとしています。引き続き、普及啓発に努めてまいります。</p>
107	その他のご意見	—	<p>各施策から「あくまで主役は個々(個人、企業、地域や市町村)」であるということが伝わるが、メッセージとしてその点(みんなが主役、自主性)をもっと強調した方がよいと思う。</p> <p>さらには、「意見はどんどん言う。意見を否定しない雰囲気作り」「ポジティブであること」などもキーワードだと思う。幼少期教育に「みんなの意見を尊重する」「自由なアイデアを出す」「ポジティブに」「相手を否定せず自分の意見を言おう」といったものを追加できないか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、富山県成長戦略アクションプランのP11に「成長戦略は県が単独で行うものではなく、県民や市町村、民間企業や関係団体などと連携を図るとともに、それぞれの自主的な取組みにつながるよう、ワンチームとなって実行していくことが重要です」と加筆します。</p> <p>また、自主性や多様な意見を尊重することについては、幼児期より発達の段階に応じた指導に努めております。例えば、幼稚園等では遊びの中で機会を捉え、自分や周囲のことを伝え、その子自身で考え行動することなどを指導しています。また、小、中学校では、特別活動等の自治的な活動を通して、相手の立場や考えを尊重した話し合い活動を進めています。今後も自主性や多様な意見を尊重することを大切にまいります。</p>